令和５年度　第１回堺市文化芸術審議会　議事録

１　開催日時

令和５年７月２８日（金）１０時３０分～１２時００分

２　開催場所

堺市役所本館地下１階　大会議室

３　出席委員（50 音順・敬称略）

雨森　信　委員	（ブレーカープロジェクト　ディレクター インディペンデントキュレーター）
さいとう しのぶ　委員	（絵本作家）
永井　泉　委員	（公募委員）
永島　茜　委員	（武庫川女子大学准教授）
坂東 亜矢子　会長代理	（演劇評論家）
藤野 一夫　会長	（芸術文化観光専門職大学副学長）
藤原　麻喜子　委員	（公募委員）
山口　洋典　委員	（立命館大学共通教育推進機構教授）

４　出席議事関係者（50 音順）

上田　假奈代　様　　（堺アーツカウンシル　プログラム・ディレクター）

５　事務局職員

文化観光局長、文化国際部長、文化課長、文化課参事、文化課長補佐、文化課企画係長　ほか

６　関係者

公益財団法人堺市文化振興財団事務局長、総務課長、事業課長、事業課係長

７　議題

（１） 会長選出について

（２）会長代理選出、アーツカウンシル部会委員の選出について
（３）堺市文化芸術審議会への諮問について
（４）第２期堺文化芸術推進計画の検証・評価について
（５）委員の視察について
（６）堺アーツカウンシルからの報告について

８　議事録要旨

開会

●事務局
　定刻になりましたので、ただいまより、令和 5 年度第 1 回堺市文化芸術審議会を開催いたします。委員の皆様におかれましては、ご多用の中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。
　本日の司会を務めさせていただきます、堺市文化課事務局と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
　本会議の開催につきましては、「自由都市堺文化芸術まちづくり条例」第 25 条第 2 項の規定により、過半数の出席がなければ開催することができないこととなっておりますが、出席委員が総数 9 名中 8 名であるため、会議は成立しております。

　＜自己紹介＞

　＜事務局より説明＞

議題
（１）会長選出について

●事務局
　それでは「議題（１）会長選出について」に移りたいと思います。
　会長は条例第 24 条第 1 項の規定に基づき、委員の互選で定めることとなっております。どなたかご推薦いただける方はいらっしゃいますでしょうか。

〇永島委員
　大変差し出がましいのですが、藤野先生いかがでしょうか。

●事務局
　ただいま永島委員から藤野委員を推薦する意見がございましたが、どなたか他にご推薦

いただける方はいらっしゃいますでしょうか。いらっしゃらないようでしたら藤野委員に会長にご就任いただくことにつき、ご賛同いただけますでしょうか。
　ありがとうございます。それでは藤野委員に会長をお願いいたします。

議題
（２）会長代理選出、アーツカウンシル部会委員の選出について

●事務局
　続きまして、「議題（２）会長代理選出、アーツカウンシル部会員の選出について」に移ります。条例第 24 条第 3 項に審議会会長が会長代理を定める条項がございまして、ここで藤野会長に会長代理をご指名いただきたいと思います。藤野会長どなたかご指名いただけますでしょうか。

◎藤野会長
　はい。初期の頃からずっとこの審議会で活躍されています坂東委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〇坂東会長代理
　よろしくお願いします。

●事務局
　ありがとうございます。それでは坂東委員に会長代理をお願い致します。
　引き続きまして、堺市文化芸術審議会では、堺アーツカウンシルとの有機的な連携、堺市文化芸術活動応援補助金の申請事業に係る審査等を目的に、堺市文化芸術審議会規則第 5 条に基づき、アーツカウンシル部会を設置しております。こちらにつきましても、藤野会長から部会委員のご指名をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

◎藤野会長
　はい。大変僭越ながらこの分野に大変お詳しい方々、5 名の方にお願いしたいと思います。まず新規ですけど、雨森委員お願いしたいと思います。それから永井委員お願いできますでしょうか。はい。それから永島委員お願いします。坂東委員、山口委員お願いいたします。

●事務局
　ありがとうございます。それでは堺市文化芸術審議会アーツカウンシル部会の委員として、雨森委員、永井委員、永島委員、坂東委員、山口委員の 5 名の方にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。またこの場をお借りしまして、アーツカウンシル部会の皆様で部会長を選出いただきたいと思います。部会長は堺市文化芸術審議会規則第 6 条第 1 項の規定に基づき、部会委員の互選により定めることとなっております。どなたか

ご推薦いただける方はいらっしゃいますでしょうか。

〇坂東会長代理
　永島委員にお願いしたいと思います。

●事務局
　ただいま坂東委員から永島委員を推薦するご発言がございましたが、どなたか他にご推薦いただける方はいらっしゃいますでしょうか。いらっしゃらないようでしたら永島委員に部会長にご就任いただくことにつき、ご賛同いただけますでしょうか。
　ありがとうございます。それでは永島委員に部会長をお願いいたします。

〇永島委員
　どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局
　ここからの審議会の議事進行につきましては藤野会長にお願いしたいと思います。藤野会長どうぞよろしくお願いいたします。

◎藤野会長
　はい。それでは改めて皆様よろしくお願いいたします。本来でしたらここで会長の挨拶ということになるんだと思いますが、1時間半という時間が限られていますので、簡単にご挨拶したいと思います。
　まず今日ここに来て、大変嬉しいというか、いいなと思っているのは、9人の委員のうち6人が女性ですよね。私はこのような審議会に出させていただくことが多くて、そのとき必ず過半数は女性にしていただきたいということやいろんな年代の女性、いろんな職業の方に参加していただきたいというお願いをしているんですが、なかなか実現できておりません。私が今関わっている新しくできた芸術文化観光専門職大学、兵庫県立ですが、豊岡というところにございます。そこも女子学生が85%にも関わらず、教員では女性がまだ25%しかいないんです。県立大学の方は10%もいない状況です。ですから、女性の教員に過大な負担がまだいってしまう。何かというと女性の教員じゃないといけませんみたいな話になってしまうので、やはり女性の教員や審議会委員あるいは、公務員でもその役職が過半数もしくは50%が女性になるべきというのが、これからの世界や社会の流れではないかと思います。ですから、私はおそらくショートリリーフで中川前会長の後を受けて、会長に指名されましたが会長も女性になると、コンプリート。次期はそうなるといいなと思っています。

議題
（３）堺市文化芸術審議会への諮問について

◎藤野会長
　それでは「議題（３）堺市文化芸術審議会への諮問について」審議策定したいと思います。それでは事務局からご説明をお願いいたします。

●事務局
　＜事務局より説明＞

◎藤野会長
　はい、ありがとうございます。当審議会は堺市長からの条例に基づく計画の推移、進捗の管理について諮問を受けるということになっております。ということで、よろしいでしょうか。では、この 2 点進めさせていただきます。

議題
（４）第２期堺文化芸術推進計画の検証・評価について

◎藤野会長
　それでは引き続きまして「議題（４）第２期堺文化芸術推進計画の検証・評価について」に移りたいと思います。事務局からご説明をお願いいたします。

●事務局
　＜事務局より説明＞

◎藤野会長
　はい、ありがとうございました。ただいまの事務局の説明を踏まえて皆さんからご意見、ご質問をお伺いしたいと思っております。いかかでしょうか。資料がたくさんあると思います。特にこの取りまとめの事業カードはかなりたくさんあるので、少し見ていただけますか。

〇坂東会長代理
　意見ということではないけれど、コロナ禍でずっと来ていましたので、検証評価作業で、この来館者数や参加者数というのはやっぱりどうしても少なくなってしまった時期が続いていました。こちらとしても評価しがたいというか、仕方ないというところがありましたが、今コロナも 5 類に移行をしたこともあり、いろいろな文化活動も盛んになっていますので、今年度から本格的な評価がちゃんとできるのかなと今感じているところです。

◎藤野会長
　はい。ありがとうございます。コロナについて令和 2 年、3 年、4 年と続いてきて、令和 2 年はかなりひどい状況で、令和 3 年でちょっと戻っていますが、令和 4 年っていろんな団

体とかの評価を見ていくと結構戻ってる。分野によって違うし、地域によっても違うんですが戻っている感じ。堺市の方は、今坂東委員からありましたけども、今年からそれがほぼコロナ前と同じような、例えば、数値目標なんかは数字で見ていけることになるというお考えでよろしいですか。

●事務局
　フェニーチェ堺等、年間来館者目標を掲げていますが、委員がおっしゃる通り令和 2～4 年に関しては影響を受けておりました。令和 5 年度以降についてはその目標に向かって各文化会館取り組んでいきたいと考えております。

◎藤野会長
　わかりました。ありがとうございます。財団から何か宜しいですか。この 3 年間のブランクというかね、少し正常ではない期間がありましたが。

〇堺市文化振興財団
　昨年来来場者はかなり戻ってきている印象を受けます。ただ、コロナ前に比べますと、やはりいらっしゃるお客様の中には、前は高齢者の方がよくいらっしゃっていたけれども、やっぱりまだ密になるので避けたい、そういうことで避けている印象もございます。本格的には今年以降ですね、おそらく戻っていくんじゃないかなという期待をしております。

◎藤野会長
　ありがとうございます。ついでと申し上げたら失礼なんですけど、後からお話が出てくる視察の件ですよね。ここにフェニーチェ堺で主催される「ベルリン・フィル八重奏団」が出ています。この演目を私達が視察するのに適切かどうかとちょっと気になったところがあって、これは音楽事務所が全国に営業して、言わば買取主催の形ですよね。手打ちではないですよね。それで実力がわかるのかどうかというのが気になるところなんですね。非常に魅力的なので私も時間があれば行きたいとは思うんですけども。例えば、市民演劇ミュージカルとかオペラとかそういったものというのはものすごく大変ですけども、そこでその財団の制作能力とか、あるいはどのぐらい市民に対してニーズや熟度等があるかというのが分かると思うんですけど。こういう買取主催の公演が視察の対象として適当なのかどうか。「ベルリン・フィル」素晴らしかったで終わったら困るわけですよね。

〇堺市文化振興財団
　実は、8 月 5 日にフェニーチェ堺がオープンして最初に実施した制作ものである菅尾さんの「魔法の笛」があります。これがフェニーチェ堺の制作ものとして実施します。また、堺の少年少女合唱団も入ってもらって、新しい演出でやっているので、非常に期待できる事業と思っています。これは制作型になるので、できましたらこれをご視察頂ければよかったのですが、時期的にも難しく座席も満席となっております。

●事務局

フェニーチェ堺のホール特性みたいなものを本物で聞いていただく必要性を一つ考えておりました。会長が今おっしゃっていただいた通り、本来のこれからの文化芸術の有り様ということで市民の皆さんがどういう風に活動、活用されているかというあたりは、今一つ事業を選定させていただいているんですけど、追加で事業を提示します。委員の皆さんに全ての事業をご覧いただくことは、なかなか日程的に難しいとは思いますが。可能であれば、市民がフェニーチェ堺を活用している場というのも 9 月以降増えてくると思います。そのあたりのご案内をさせていただいて、その事業を見ていただけたら、我々としてもありがたいなと思っております。今選んでいるのはホール特性がわかりやすい事業ですが、まさにその市民活動の中で、フェニーチェ堺のホールがどう活用されているか、どのようにしていけばいいかというご意見はぜひ頂戴したいところですので、そこは改めて追加させていただくことが可能であれば案内致します。

◎藤野会長

市民がどういうふうに使ってるか、貸館使用も重要ですし、それから自分たちで制作したものも重要かなと思いますので、そのあたりは追加で何かありましたらご案内頂けますでしょうか。

●事務局

今回の視察について改めて説明しますが、まずはどういう狙いで、どういう考えで事業を実施しているかを、事前に狙いをご説明いたします。例えば、フェニーチェ堺であれば、この事業を担当する方が、この事業の狙いが何であるか、また先生方のご要望あればフェニーチェ堺は今どういうことを考えて、全体の事業計画を組んでいて、その中で「ベルリン・フィル」の事業を実施しているかということをご説明致します。また、財団が実施するミーツアート、アートスタートをご覧いただきますが、どういう考えでこの事業をやっているかということに関して事業課係長が説明したことについてもご意見をいただければ。各事業の視察という観点のご意見と事業全体に対するご意見なども頂ければと思っております。

◎藤野会長

是非、今年度はそれをやらせていただきたいなと思います。よろしくお願いいたします。

〇雨森委員

初めてなのでまだまだ分かっていないこともたくさんあると思います。今日の資料を見せていただいたなかで、事業カードの取りまとめ資料があって、これすごくユニークだなと思って拝見していました。文化関係だけではなく、生涯学習課だったり、様々な課が事業カードとして提出されるという仕組みが面白いなと思いつつ、そこがどれぐらい有機的に連携できているのかお聞きしたいです。

あと指標のところ、一番右側の成果指標のところが数字だけというのも気になりました。簡潔にまとめるにはこういった数値になってしまうのかもしれないんですけど、例えば全体の人数だけではなくていろんな数値の取り方もあると思います。どれだけ継続して参加してる人がいるか、どれだけ新規の人が来たかみたいなこととか、そういったことも含めて評価、もちろん数値だけではない、評価というのもお聞きできればと思います。

◎藤野会長

はい、大変難しい質問だと思います。各課きちんとKPIを立てて、アンケートとか実施しているかどうかにもよると思いますが、いかがでしょうか。

●事務局

はい、全ての事業を、審議会を所管している文化課が一つ一つの事業を確認して意見を述べるということなかなか出来ていないのが現状でございます。文化芸術審議会というのは、文化課だけではなく堺市の文化政策に関わる健康福祉局等であるとか様々な事業を管理というより、範疇で意見を聞く機関でございます。今回、直接視察に行っていただく事業というのはどうしても実施可能な数に限りがございます。今回 6,7 事業くらいになってくると思いますが、それ以外についてもペーパーベースで意見を提出させています。また、本日ご意見があったことについては、強制することはなかなか難しいですが、審議会で意見があったのでぜひ参考にしてくださいと我々から所管課にはお伝えしていきます。

成果指標について、定量的なところと定性的なところを、どこでどう評価するのかというところも非常に難しいなと思っております。行政的な成果指標については、まずは定量的なところということで書かせていただいています。我々も事業をやっていくなかで、フェニーチェ堺の事業に何人来るかという来館者も定量的になりますが、当然フェニーチェ堺もその定量的なところだけを意識しているわけではございません。各事業につきましても同様というふうに我々は認識をしておりますので、成果指標としてここに記載しているのは定量的となりますが、我々と同様に定性的にはどういう影響、例えば、子どもたちにどういった影響があるか、経済的にどういう波及効果があるかは自主的に意識してやっております。今日のご意見を定量的なことだけに意識を向けることなくフィードバックしていきたいと思っております。

◎藤野会長

ありがとうございます。これは推進計画に基づいて、事業カードの取りまとめを行っていることで、中川前会長はどこの自治体でもこのような事業カードを進められています。私は 20 年くらいコンビで中川前会長といろんな自治体に関わらせていただいて、確かに見える化するという意味では、すごく良いです。相互に部署を超えて何をやってるかというのがわかるというのもいいんですが、一つは行政コストが大変ではないか。小さな自治体の場合は一人の職員が付きっ切りになる。コストと、雨森委員がありましたように、見える化が出来たが、相互にリンケージやコネクトしているのか、そのことによるシナジー効果がどう出て

るかというところまでが見えてこないですね。小さな自治体ですと、文化政策が地域総合政策的な形で結びつくことがあるんですけど、政令都市になると縦割りというのも大きい、専門化も進んでいるので、こういう風に全体を見える化されているものをどういう風に活かしていくのかが次の大きな課題ですね。

だから審議会そのものがおそらく年 2 回ぐらいなので、その 2 回の審議会でこういった事業カードを見せていただいて、ここととここを繋いだら何か面白いことができるんじゃないというクリエイティブな発想がどのくらい出てくるのかというのも要検討かと思います。もしそれをやるんだとしたら、負担増になるけど、プロジェクトチームを作って、この横串を入れることによって堺市の文化力をどうやって高めていくのか、発信力を高めていくのかを考えることも、次のステップとしてあるんじゃないかなというふうに思います。

あるいはそれをアーツカウンシルがどう担うのかどうかという問題もありますよね。ちょっとこれは大きな問題提起だけ整えておきます。他いかがでしょうか。

〇永島委員

二つあります。先ほど、藤野会長がおっしゃったように、この「ベルリン・フィル」の評価は資料として残るんですよね。そうなったときに、今おっしゃったようにホールの効果やホールの使い方等、特性が活かされているかどうかというところをきっちり書いておかないと、審議会委員から見ると、どうしてこれを選んだんだろうという、すごくいい加減なことをしてるように思われかねない。なので、財団がきちっと作り上げているものを視察した方が、これは資料として残ってしまうので、そこはお願いしたいかなと思いました。

あと二つ目ですが、事業カードについてせっかく出てきたものを連携させることをお願いしたい。私達はこれを見ただけで分わかりますが、やっぱり市民の方からすると多分どれも同じに見えてしまうので、その辺を市民にどう伝えていくのかというところもありますし、あとはこの連番があるんですけど、これはどういう順序になっているんでしょうか。

●事務局

表に記載している所属コードに基づき組織順に並べております

〇永島委員

関連の深いものを上の方にしていったりとか、例えば高齢者の健康促進等も混じっていて、総合政策としては関係あると思うんですけれども、そこまで直接関係ないので、それをちょっと下の方に順序をしていくとか、並びでより関連が深いものから手をつけていけば、より整理はされていくのかなと思いました。以上です。

◎藤野会長

なにかお答えありますか。

●事務局

堺にビッグ・アイという障害者の施設がありまして、今年もフェニーチェ堺で 9 月 9 日に実施しますが、フェニーチェ堺が知的障害事務局のビッグ・アイとずっと組んでいるオリジナルの劇場体験プログラムがあります。9 月になりますので、それを視察頂いてもいいかと思いましたが、こちらで再度検討してフェニーチェ堺主催の事業を一つ追加でお示ししたいと思います。永島委員がおっしゃった事業カードの掲載順につきましては、役所の都合になっておりますので、書き方を変えて市民目線での提供を工夫していきたいと思います。

〇永島委員

それは多分エクセルの並び替えでいいと思いますので、よろしくお願いいたします。

◎藤野会長

山口委員どうぞ。

〇山口委員

今の話はおそらくこれは見える化の資料であって、見せる化になってくると思うんですね。堺におけるこの文化芸術の取組の価値をどう位置付けてるのかということはまたもう一歩踏み込まないといけないんだなというのが、今のやりとりを伺いながら感じたところです。つまりは、担い手として広がっていく、いわゆる草の根的というと、ちょっと踏み込みすぎた言い方かもしれませんけれども、多くの人が小さな取り組みを多々行っていく。ストリートミュージシャン的なものかもしれませんし、カラオケボックスに行ってストレス発散するということも生活文化への浸透ということで、何かあるのかもしれません。鼻歌とか堺東の駅でご機嫌さんな人がたくさん増えたとか、そんなのもあるのかもしれません。一方で、きちんと鑑賞するいわゆるリテラシーというか、鑑賞教育も文化庁が見込んでいるところですので、鑑賞教育の一環でこうした買取型の箱の公演ではありますけれども、多くの人が行く、それが先ほどもありました経年で雨森委員がおっしゃった形でどういうふうに動いていくのかということをサンプリングして、いくつか継続して見ていく。おそらく今後の令和 7 年度までの計画の中にあるインパクト評価等の新しい手法を検討するといったところに踏み込んで話がいくことですので、本当にバックデータというかメタデータとしてこうしたものが蓄積されていく中で、費用対効果とは言いたくはないんですけども、まずはご鑑賞いただく方々の数を維持するということだけでも大変な中で、特にその文化が消費され、あるいは個別化していく中で維持することだけでも大変な中であれば、右肩上がりになることだけが、マルではないですよというところ。見える化から見せる化ということの主語という話もありましたけども、市役所として見せると、一方でアーツカウンシルとしてはこういう見方もありますという見え方の多様性ですよね。人が多いことだけが良いわけではなくて、少ないことが悪いわけではなくてという部分があるのであれば、そうしたら見せる、あるいは読み解く上での観点をうまく示していかないといけないんだろうなというところで、ちょっと複数話をしてしまいました。

まずは蓄積されてきたデータに対して、それをどう見せるかという部分の価値の提示の

仕方がこれから肝心になってくるだろう。一方で、見せる上でそれがいいのか悪いのかというところについて、もし価値の提示ということで踏み込むのであれば、少ないことが悪いわけじゃないというところが、おそらく質的な評価になってくるでしょうから、その目利きを育てるという意味では、その詭弁だと言われずに、リテラシー鑑賞者鑑賞教育などと関連して、なるほどなあというところで、そうした見立てを楽しんでいくこともできるような、そうした方々を育てていくのがアーツカウンシルの一つの役割になるかと思います。

◎藤野会長

ありがとうございます。相変わらず芸術文化に関わる評価というのは本当に難しいので、私もいつも悪戦苦闘しているところです。ここで出てくる定量的な評価とは違う、定性評価は、視察したところについては出せるんですけれども、それ以外は本当に何百という事業がある中で、全体をどういうふうに評価していくのか。それからステークホルダーがたくさんありますよね。議会に対して説明するには、数字が一番わかりやすい話ですし、でも住民がどこまで地域に対する愛着を持つかとかね、プログラムを持つかというところは、なかなか数字では出にくいところだったりするので、その辺もこれから工夫して考えていくべきかと思います。ありがとうございます。他よろしいですか。

〇永井委員

今年から公募委員として委員になりましたので、あくまでもこれまでの市民の目線から二つお伺いします。

その一つは、「ベルリン・フィル」に関連することで、先ほども少しお話に出ました、夏休みに魔法の笛とあとドン・キホーテバレエがありまして、私も子どもを連れて鑑賞する予定です。あと先日、子ども向けの公演に先立つワークショップがありまして両方とも参加しました。こうした「ベルリン・フィル」のような公演においても、その鑑賞に先立って子どもあるいは、あまりその音楽にこれまでなじみがない人に対するワークショップのようなものの企画というのがあるのかということお伺いしたいことの一つです。

それからこの事業カードの中で、挙げられてる事業で、これは全く私の個人的な関心なんですが、JR 百舌鳥駅の近くに都市緑化センターというところがありまして、あそこは私の子どもが生まれた頃、近くに住んでいたもので本当にお世話になってしばしば訪れたんですが、かなり年数も経っていて、コロナ前ですけれども演奏や展示などもあって、緑と芸術があり、本当に小さなところですが、いいところだなあと思いながらもあまり知られてなくて。近くに引っ越したら友達などに言っても、ここにこんな良いところあるの知らなかったというような人が多かったんですね。ただ、ここではやはり都市緑化センターというのは、事業としても事業者は別になるのでしょうか。本当に素人なので、どこまでが芸術文化の事業者として取り上げられているかということが分からなかったものですから一つ伺いたいと思いました。

◎藤野会長

まず都市緑化センターが文化政策の担当というか関連部局なのかどうかという所ですね。

●事務局

事務局としましては、基本的には堺市で行っている関連事業については、全て対象にはなると考えております。ただ、これは事業カードを取りまとめる方法が、事務局である文化課から全庁に照会を投げまして、そこの所管課が該当すると思ったものをあげてもらうというやり方をしております。事務局としても都市緑化センターの取組までは把握していなかったもので、こちらからお声がけしてこの事業を上げてくださいという言い方をしていないものですから、今回の事業カードには載っていないということになっております。ただ、所管課からこれは文化芸術に関する取組なのでということで今現在実施しているの取組を上げていただければ、事務局としては掲載する方こととしております。

◎藤野会長

今後、検討よろしくお願いします。今の「ベルリン・フィル」も含めてご意見あればどうぞ。

●事務局

フェニーチェ堺の政策については、落語なども「ひるらくご」と題して 1,000 円で割と短い時間で落語を楽しんで頂くというものがあります。文楽についても全く同じスキームなんですが、事前に 2 回に分けて説明をして本番を迎えるというスキームを取っております。

クラシックについては、例えば、大阪交響楽団が堺に本拠がある団体としてございまして、これもまた短めの一時間で 1,000 円ぐらいの単価を設定して、最初にクラッシックを楽しんでもらう公演をしております。何も触れたことが無い方でも事前に触れる機会を創出する機会を引き続きフェニーチェ堺や指定管理者に対し指導していきたいというふうに思っております。

〇堺市文化振興財団

今事務局がおっしゃったことに加え、フェニーチェ堺担当ではございませんが申し上げます。ゴスペルのワークショップやコンテンポラリーダンスについてもおっしゃる通り、初心者の方が参加出来る各種事業をやっておりますが、他方、こちらの集まりはいいけれども本公演の方にどう繋げていくかという課題の方が、今、問題意識として上がっていると聞いております。

先ほど評価の話がございましたけど、この事業カードを提出しておりますが、これは他部局の皆様と統一した指標という理解で、私の方からも数値を入力して、照会に対して回答を申し上げているんですけれども。これは事業カードとしてのフレームでお答えしている限りで、別途、財団事業課の方では個別の事業について、全てではないんですけれども、独自で事業の検証評価を入れております。例えば、子ども食堂に関しては、まずアンケート調査と、実際の本番で子どもたちがどんな様子が見られるかというモニタリング調査と、あとは

アーティストが年間子ども食堂に関わったことで得られた気づきや子ども食堂の実践者側が得られた気づきを共有するインタビュー調査の 3 点からの定性的な評価と定量的な評価をあわせて分析するということでやっております。ただ、これが年度末納品ですので、審議会の皆様にお見せするには間に合わないというところがあります。実際、令和 4 年度の分についてはまもなく皆様にお見せできる形になりそうです。こういったことを通じて、あとはミーツアート、学校向けについても、これは報告書としてはまとまっていないんですが、ミーツアートについては、終わった後、学校の先生とアーティストと財団職員で振り返りをするということをやっております。その記録も残っておりますので、そういったことも皆様に共有することは可能かなと思っております。

◎藤野会長
　ありがとうございます。そういうフィードバックがとても大切なので、ぜひ私達に共有してほしいと思います。ありがとうございました。
　時間の配分のこともございますので次の議題にさせていただきます。

議題
（５）委員の視察について

◎藤野会長
　「議題（５）委員の視察について」事務局からご説明をお願いいたします。

●事務局
　＜事務局より説明＞

◎藤野会長
　はい。ありがとうございました。今の点について何かご質問ございますでしょうか。
よろしいですか。ご都合のつく範囲で視察をお願いしたいと思います。

議題
（６）堺アーツカウンシルからの報告について

◎藤野会長
　では続きまして「議題（６）堺アーツカウンシルからの報告について」になりますが、事務局からご説明をお願い致します。

●事務局
　＜事務局より説明＞

〇堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター

皆様のお手元にある堺アーツカウンシルのパンフレットがあるかと思います。そこから紹介していこうと思います。

まず、世の中にアーツカウンシルというものができて、何年か経っており、ますます増えていっております。ご存知だと思いますが、アーツカウンシルには様々な形がございます。堺市のアーツカウンシルの図については配布しております活動報告書にある A3 の図をご確認ください。

まず、下に堺市文化芸術審議会の皆様がいらっしゃいます。そして、皆様と一緒に文化課とプログラム・ディレクターとプログラム・オフィサーがいて、その全部をアーツカウンシルとなります。かつ、この審議会の中に、またアーツカウンシル部会があり、部会の先生たちには補助金の審査していただくことになっています。プログラム・ディレクターとプログラム・オフィサーは、補助金に関しては、審査に関わるのではなくて、市民の方や芸術団体の方、アーティストまた芸術活動されたいという方の相談に対して一緒に考えたります。また、採択不採択にも関わらず、年間を通じて相談があれば、お話しを伺うなど、伴走していくこともしています。

補助金の話が出ましたので、先に忘れないうちに話しておきます。先ほどの事業カードですが、アーツカウンシルの成果が補助金申請件数になっています。初年度はたくさんの方が応募されましたが、だんだん減っています。相談をしますと、ちょっと補助金には当てはまらないとお感じになったりとか、また物品が欲しかったんですという相談があったりしますと、この補助金に該当しません、などと、ミスマッチが減っているということにはなるんです。しかし、成果指標としては数字が減っている形になってしまいます。減少する数字を見たときに、ネガティブな印象をもたれるかもしれません。そのため、この成果指標にプラスして、補助的な指標というものがあった方がいいかもしれないと思っています。例えば、相談件数。数字としては見やすいかもしれないです。

アーツカウンシルはこの組織図の矢印は指導・調整となりますが、堺市文化振興財団と協働して、いろいろな事業を展開しております。皆様にも視察のしていただくモデル事業は地域文化会館の職員さんへの実践研修プログラムです。職員さんが市民と一番近くで接することになりますから、職員さんが地域のことをよく知った上で、アウトリーチ型のプログラムも実践できるようにということです。まず 1 年間研修を重ね、2 年目は実践を行っております。今年は 3 ヶ所、子ども食堂、病院そして多機能の高齢者の方のデイサービスところに伺っていきます。それぞれの施設さんのお話を伺って、どうしたらプログラムが効果的かを考えて、アーティストを選定して一緒に取り組んでいきます。教育委員会所管の文化会館の職員さんも一緒ですから、本当に全市的な取組になっております。非常に実践的な取組だと思いますし、全国的にも珍しい事例だと思いますので、ぜひ委員の皆様には見ていただきたいなと思っております。次年度以降も現在行っている 2 年間のプログラムをギュッと 1 年にして実施したいと思います。ゆくゆくは例えば、図書館など、市民の方と接する活動をされるような方たちと繋がっていきたいなと思っております。

全国のアーツカウンシルは伴走支援がよく行われています。実際に 3 年間行った感覚で

言うと、伴走支援ってちょっとおこがましい言葉だなと思っています。というのが、わざわざ来てほしくない、何か突っ込まれるんじゃないか等、やっぱり現場感覚ではあるのかなと思います。ですので、私達としては、ぜひ皆さんの活動を知りたいんです、お聞かせくださいというような形で、お願いをしまして、なるべく話してもらいやすい関係を作っていきたいなと思っています。そのため、勉強会であったり、また、気軽に話ができて自らがピア的な取組ができるようにということで、さかいとあーと井戸端かいぎという集まりを開催しています。

勉強会については、堺東が、交通アクセスが良いので市役所を中心に行っていますが、井戸端かいぎについては、市内を回っていった方がいこうと、地域会館の方にも順番に回っているところです。

やはり、アーツカウンシルの中間支援的な活動って難しいと思っています。何よりも市民の方たち同士が繋がっていくことが最も学びになるな、気づきになるなと思って、そういう機会を作っています。さらに子どもや福祉に関わってる方がこうした場に出席いただくことで繋がっていってほしいと思っております。こうした勉強会を続けていましたら、社協さんの方からアートと社協の繋がりで、何かモデル事業ができないかなということが今、挙がっています。社協さんでは子ども食堂などをして、地縁組織ではない人たちが個々に関われるようになったけれども、まだまだ関われてない人たちへのアプローチとして、アートというものを考えているそうです。アーツカウンシルと一緒にモデル的な取組を考えていきたいです。

また、ニュースレターというのを作っています。取組をお伝えするのに Web サイトや SNS もありますが、視察をしたことや勉強会の取組等をまとめることによって、こんなアーツカウンシルですからお声掛けください、と思って作成しています。

昨年度末には堺アーツカウンシルにはプログラム・オフィサーが 5 名、音楽を専門にしたり、子どもたちの調査やまち作りといったものへの専門性の高いオフィサーがいますので、彼らの得意技を合わせまして、「ヒント集」というものを作りました。配布しながら市民の方たちと関係を作っていきたいなと思っております。

あと 2 枚のチラシが勉強会と井戸端かいぎのチラシです。もしお時間があるようでしたら覗いていただければと思います。アーツカウンシルの活動を始めた頃のコロナ禍でしたので、オンラインで開催したこともございますが、現在はハイブリッドでは行っていなくて、実際の対面で開催しています。

令和 3 年度の報告書につきましては、調査担当の大澤プログラム・オフィサーにも来ていただき、補助金に採択された方が参加された方へのアンケートを調査をしています。実際に行った視察のことも紹介しておりますので、見ていただければと思います。

本当に、堺は多様な活動があるなというのがこの補助金を通してわかりました。そして、もちろん高齢化の問題もあれば、新しくこんなことをしてみたいという意欲のある方もいらっしゃいますし、そうした人たちの受け皿となるような補助金でありたいなと思っています。

ちょうど 3 年経ちまして、補助金採択は、同一事業は 3 年までですから、次へのステップ

アップを考えていらっしゃる事業者さんもいます。少しずつそういった相談を行っています。私から報告できることというのはこういったことです。もし何かご質問や提案があれば承りたいと思います。

◎藤野会長
　はい、丁寧なご説明ありがとうございます。堺のアーツカウンシルは、私は日本の中でかなり先端的なシステムを持っていると思いますけれども、とはいえ、先ほどの伴走支援というのが、おせっかいじゃないかというそういう声が出てきたり、いくつか課題がまだありますよね。まだ3年ということで、その辺を今期は解決していけたらいいなと思っています。皆様の方からご意見、ご質問がございましたらよろしくお願いします。

〇さいとう委員
　アーツカウンシルの相談を受ける件数は年間どれぐらいですか？

〇堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター
　最近特に増えておりまして、令和3年度の実績は活動報告書に記載しております（令和3年度実績41件）。また、私が市役所に出務する日をSNSで公開しておりまして、そうするとこの日に行けばいるのね、ということで来てくださる方も増えていますし、おかげさまで繋がりが生まれて、メールや電話での相談が多くなってきました。

〇さいとう委員
　すごく良い活動で地道な頭が下がるような活動をずっとしてくださっていますが、私も堺市民なので、周りの人にアーツカウンシルって知っていると聞いてみると、みんな知らないと言うんですよ。何それとみんな言うんです。だから、こんなにいろいろ活動されているのを広げるには、知ってもらうにはどうしたらいいのかなと、チラシやホームページとか、先ほどおっしゃったSNSとかだと思いますが。広報さかいは結構みなさん見ておられて、1回特集も昨年ありましたよね。でも、その後小さいのしか載らないから、どうしたらいいのかなと私もなんか日々考えておりますが、聞く人みんな聞いたら何それと言うので、私ももうすっかりそのアーツカウンシルという言葉に慣れてしまった。慣れましたけれども、それほどには市民の方々には伝わっていないのが、どうしたもんかと思っております。

〇堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター
　さいとう委員もアーツカウンシルの一員ですね。

◎さいとう委員
　はい、ですから、私もご説明申し上げていますが、ご存じないです。

〇山口委員

昔、大阪のアーツカウンシルが大阪府と市の連携のアーツカウンシルの話をずっとしてたとき、551の話をしたことがありました。蓬莱という会社なんですけど、551というのがもう圧倒的に存在感あって、蓬莱に買いに行くというのも何かピンとこないと思うんです。551 食べると言ったら食べるかもしれないですけど、アイスキャンディーもありますけど。補助金の存在が知られればおのずとアーツカウンシルは、もしかしたら知られるかもしれないので、補助金に愛称をつけるとか、何かなじみがあるものは直接触れる事柄なのでもちろん相談も一つだと思う。アーツカウンシルが一つの大きな仕組みでしかない。その仕組みの名前を知ってもらうよりは、蓬莱という会社をちょっと強引ですが、会社の名前の知ることも大事だと思うんですけど、551というものが多くの人に実際親しまれて、ある時、ない時というふうに言われるように、アーツカウンシルがあるとき、あるいは補助金がある時にない時というイメージです。必ずしもその補助金に応募してもらうだけではなくて、相談であったりとか、後は継続的な補助金への要望だけが必ずしもあるじゃないのというと、依存が生まれるかもしれないので、1年クーリングオフして、また3年というそういうことだけだと、外部資金の獲得ができないでしょうから、例えば、連携型の取組をしていくだとか、敵を作るというか、ライバルを作るような形になるかもしれませんけど、指定管理者を狙っていけるようなものであったり、あるいはプログラム・ディレクターになろう、プログラム・オフィサーになろう講座とか、そのいろんな担い手の拡張というところです。また戻りますけど、アーツカウンシルそのものの名前を、つまり仕組みを知ってもらうことも大事なんですけど、そのスタイルであったり、あるいは何か愛称としてせっかく素敵なこのマークもあったり、このマークは見たことあるよ、マークは知ってるよと言ってもらえれば、うまく人々の動きの中に、その存在感や存在意義が浸透することの方が大事なので、あんまり名前にこだわりすぎない方がいいかなと思います。上田プログラム・ディレクターは知っているよ、柿塚プログラム・オフィサーはよく知ってるよ、このヒント集は見たことあるよ等それでもいいのかなと思います。なかったら困るという空気のような存在になる。551の存在のようになる。

指標の話はぜひ拡張していったらどうかというところと、もしかしたらこの取りまとめの事業カード、あるいはナンバリングでの管理に対して、ちょうどハッシュタグとかが入っていたんで、ハッシュタグなどを通じたキーワード化をして、その事業のマッピングをして見せる化をする工夫なども、もしかしたらアーツカウンシルの役割かなと思います。アーツカウンシルに期待しつつ、さいとう委員がおっしゃった浸透をするときに名前は知らないけど、内容は知っているという人が増えるのも一つ重要な手がかりじゃないかというところで、もちろん名前だけが先走って浸透して、結果として誰も利用しないという方がむしろもったいないので。

〇さいとう委員

応援補助金の申請もそんなに増えてはいないんですよね。だからそこが問題だと思います。

〇藤原委員
　是非お伺いしたいのですが、アーツカウンシルは静岡とか京都とか大阪とかいろんなところにあると聞いてるんですけど、堺のアーツカウンシルになると堺独特のその既存のレガシーと言われる文化と、あとこれから何十年後かに堺の代表する文化の二つがあると思うんです。拝見してると、既存のレガシーの分野に入るものがちょっと少ないなというのがちょっと気になります。11 ページ目にある茶道や着物などの分野の相談というのは少ないのでしょうか。

〇堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター
　まず、補助金の対象事業として、例えば着付けは入りません。堺の条例では茶道が入ってますから、茶道として申請いただくことが可能で、こちらの団体さんは着付けの団体さんではあるんですけれど、茶道と一緒に事業をすることによって、採択いただいています。また茶道の茶室の湊紙に着目された方が昨年度採択されています。やっぱり堺ならではの着眼点での申請というのは、よいと思います。ただ数は確かにそれほど多くなってないですね。

〇藤原委員
　掘り起こしというのは、あまりなされてないのでしょうか。

●事務局
　本補助金の趣旨として、社会的課題の解決というのを全ての事業に対してお願いしていて、これまではその点が表に出過ぎていて、その辺りが難しくとらえられてしまって、特に昔から長く活動されてる方にとっては、ちょっとピンとこない。実際に申請いただいたら、使っていただける事業も十分あるんですけれども、そこがちょっと結びつかずに、伝統的な分野が少なかったなというのはありました。ただ、事務局として排除しているというわけではなく、これからそういった分野の方にもこの補助金を活用していただけるように、社会的課題解決というのがそんなに難しい話じゃないんだよということも含めてしっかり広報していきたいと思っております。

◎藤野会長
　よろしいでしょうか。さっきの 551 の話はすごく面白い話で、近畿大学でも中吊り広告で同様のことをしていますよね。マグロだけではなくて、ああいうアピールの仕方もあるかなと思いました。あまりもう時間がないのですが、何かこれだけはというのがありましたら、アーツカウンシル関係ご質問やご意見ございますか。

〇山口委員
　はい、浜松のアーツカウンシルの話なんですけど、申請書という言葉をやめたんですね。提案書にしてどうしても交付決定した後は申請をしないといけないから、出すんですが。申請というのは、請い申すので、やっぱり上に対する形になるので、事業は提案で、その後採

択が決まった後の手続きで、交付決定をしていく上で、もう一度、申請書に整理し直すということにして、敷居を下げるという工夫をしていました。そのシートの工夫になるかわからないですけど、心理的な距離感を調整するというところで、しかも解決を求めるんだったら提案かなという、提案書という形ですね。あと、罫線を取ること。

◎藤野会長
　芸術文化振興基金なんかは要望書なんですよね、ちょっとその辺りも工夫していただければと思います。他、雨森委員どうですか。何かありますか。

〇雨森委員
　アーツカウンシルがなかなか知られていないという話で思ったのは、やっぱり芸術文化やアートそのものが市民どれだけ浸透しているかというところと繋がっていると思うんです。そもそも、なかなかそこにアクセスしない、できないということがあると思う。アーツカウンシルがあることで繋がっていけるというような、仕組み、環境を作っていこうとしていると思います。それそのものがやっぱり知られていくには時間がかかるということを前提として、今されてる地道な活動が積み重なっていくことで、浸透していくというふうに捉えられるといいなと思います。

◎藤野会長
　ありがとうございます。私がちょっと気になっているのは、例えば、文化振興財団やフェニーチェ堺とかあるし、それから音楽事業が比較的多いですよね。神戸市も同じなんですけど、アーツカウンシルのプログラム・オフィサーを見ていくと、美術関係の専門家がいないんですよね。雨森委員を専門家にしてもいいと思うんですけども。やっぱり美術関係を補強した方がバランスとしてはいいんじゃないかなという気がするんですが、いかがですかね。

〇堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター
　現代アートの方であれば、川那辺プログラム・オフィサーであったり、宮浦プログラム・オフィサーだったり、少しは私もなんですけれども、超専門ではないけれども、感覚的には美術関係も出来るかなと思っています。

◎藤野会長
　このプログラム・オフィサーの選抜はどういう形で行ったんでしょうか

〇堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター
　私が選ばせていただきました。

〇永島委員
　それこそレガシーに関わるようなところも、伝統文化だったり見れるといいですね。

●事務局

厳しいご意見ばかりだったんですが、行政側からアーツカウンシルを一定評価してお話をさせて頂きます。今まで、社会包摂的な取組が、なかなか行政ができていなくて、それぞれ個別に文化団体があって、その人たちはご機嫌に自分たちの活動されているんですけど、そこと一般の人たちが鑑賞するとかそこに入っていきたいという方々とのお付き合いというのが長く堺にはなかった。おそらく大阪市もそうだと思うんですけども。

この堺アーツカウンシルの特徴というのが、一般の方にどんどん参加していただきたい。私もちょっと自分で文化芸術活動をやっていまして、大阪市のアーツカウンシルの補助金をもらったりするんですけど、お金をもらって、その精算して終わりみたいな形になりますが。上田プログラム・ディレクターのおかげで、立ち上げるところからいろいろ相談させていただいてとか、こういうヒント集なんかを作っていただいたり、こういう特徴がしっかりできていて、この3年間は種まきをしている状態で、さいとう委員のおっしゃる通り、一般には知られてないと思うんですけど、すごい勢いの口コミで広めていっていただいてるなと。井戸端かいぎとか来ていただいて、そこからまたその子どもたちが行ったらいいよみたいな形で、上田さんがおっしゃったように、今日はここにいるよという発信で、ふらっと訪れる方もいらっしゃったり、なかなか文化とか芸術というと、一般の方には敷居が高いですが、分断されていたのがちょっと繋がってきたなという感覚はあります。

そのあたりをどう評価していって、市の方でもこういったこととかいうのをしっかり発信していきます。これは文化芸術に限らずのヒント集になっていて、何かコトを起こすときに役に立つものなので、行政の中とかでもこういうものをアーツカウンシルが作っているようなことを我々が発信しながら、事業カードについても、案外この事業は文化に繋がるんじゃないかみたいなことが、視点を行政の中でも持っていけるようなきっかけには、いろいろアーツカウンシルが担っているかと思います。この方向が間違っているとは我々も思っていませんので、広げ方ということに関しては、我々も頑張らないといけないことがありますし、こういうことをしたらどうかとご提案いただいたら、市の方に反映していきたいと思います。よろしくお願いします。

◎藤野会長

このヒント集はどのくらい普及しているんですか。

●事務局

昨年度末に完成したところですので、今年度に入ってから勉強会や井戸端かいぎで配布しています。また、ご相談に来られた方に対しても配布しております。

◎藤野会長

ホームページからダウンロードできるんですか。

●事務局

はい。行政内部でも知ってもらえると、他部局でも文化に近いような、先ほどおしゃっていただいた都市緑化センター等にもヒントになると思います。そうすると、他の部局でもアーツカウンシルの存在を知ってもらえるかと思いますので。

〇永島委員

町の人間国宝じゃないですけど、ああいう感じで参加してもらった活動を貼ってもらうとか、もっと市民の人が先進的に参加できる感が得られるものがあるといいかもしれない。

◎藤野会長

ありがとうございます。時間的に強制終了という形になってしまいました。ずいぶん熱い議論がたくさんあった初回となりました。以上で終わりたいと思います。ありがとうございました。最後に事務局から何かありましたら。

●事務局

＜事務局より説明＞